

が、元の天子や大臣が漢文に通じなかつたといふことを二十二史劄記という書物の中に述べて居るが、そこに挙げた以外にも幾らも例を擧げることが出来る、例へば遼と金と宋、この三代の歴史を元の朝廷で作つて居る、當時之を三史と稱したものである、この三史の中、先づ一番初めに遼史が出来上つたので、それを時の天子順帝に上つる事になつた。この時脱脱といふ人が宰相で遼史編纂の總裁官であつた、そこで編纂に従事した人達が、この總裁官たる脱脱に向つて「あなたが三史の總裁官であるから、儀式を修めてあなたから天子に奉つて貰ひたい」と請ふた。ところが脱脱は「歴史を拵へて天子に奉るといふやうなことは學者の仕事だ、そんなことは自分の關はることではない」と答へた。實際は兎に角當時の宰相として三史の總裁官となるものゝ言葉としては驚くに堪えたる次第である。そこで編纂官等は更に相談をして、脱脱は非常に名聞を貴ぶ人だからそれに附けこんで動かそうといふので「遼史に總裁官としてあなたの名を書いて置けばあなたの名前は永久に傳はつて亡びない譯である」と説いた所が「さういふものか、それでは早速やらう」といふ譯で喜んで上獻の儀を擧げたといふことである。

## 七

その後金史、宋史も同じ順帝の時に出来上つたが、この時には阿魯圖といふ人が宰相であつた、これは蒙古で有名な家柄の人であるが、それが領三史事といふ名で名義上金史、宋史の編纂を總裁した、さて愈々これが至正五年に出来上つたのであるが、それを天子に奉る上奏にどういふことを言つて居るかといふと「自分は漢文は讀めませぬ、この中に書いてあることの意味は分らない、併ながら今出来上つたのであるから、これを天子に奉る」とい